



平成30年度を振り返って

研究・研修

教育情報

☆「だれもが研修（1）児童生徒理解」から

岐阜大学教授 橋本治先生をお迎えし、今年度市内半数の学校が、特性をもつ児童生徒について理解を深める「だれもが研修（1）」を行いました。内容としては、KJ法による演習形式で、協議を中心に行いました。ここでは、橋本先生による講義の中からそのエッセンスを紹介します。

【発達の段階に即して重点としたいこと】

- ☆0歳～幼・保：生活が落ち着いて送れることが大切
- ☆小学校：学習を落ち着いてできることが大切
- ☆中学・高校：思春期を上手に越えていけることが大切

【重点的な取組方法～3つの段階～】

I	対処が中心の段階	教室を飛び出す、暴力を振るう、自傷行為がある、刃物が出てくるなど、緊急に対応しなくてはならない状況での相談には、すぐに対処法を見つけ、クールダウンさせたり、人員を余分に配置したりするなどの措置が必要。
II	支援が中心の段階	この子はなぜこのような行動をとるのだろうか。また落ち着いた状況からどのような経過をたどって困難な状況になったのかなど、よく観ていくことによって支援の手掛かりを見つけていくことができる。
III	自覚が中心の段階	IIの支援を自分自身でできること。自分で支援を考え初期対応する方法を冷静に見つけ出すことができる。

「対処の段階」から「支援の段階」へ進めるために

- ① クールダウンの部屋・人（通級・SST等）
- ② 教室内の支援員等の配置
- ③ 家庭と協力（社会性全体で考える）
- ④ 「支援が中心」の場面を増やしていく
- ⑤ 教室場面の「支援が中心」を過半数に

「支援の段階」から「自覚の段階」へ進めるために

- ① 適切な支援を行う（SST・社会性等）
- ② 初期段階での支援をする（気づきのポイント）
- ③ できていたらほめる（ささいなことでも）
- ④ 社会性を伸ばす（家庭と協力）
- ⑤ 結果的に支援が少しずつ減る（参考：UD）

研修の機会を捉えて、教師力を高めようとされる先生方の意欲に、今後も応えていきます。



☆ICT機器の活用

今年度は、来年度から始まる小学校プログラミング教育のスタートに向けて準備を進めてきました。研究員の先生方には、検証授業を行っていただき、各教科における効果的な授業についての指導案と総合的な学習の時間5、6年生のカリキュラムを整えることができました。3月末には、各学校へ送付します。子どもたちも先生方も楽しみながらプログラミングの授業ができるようにと願っています。



また、ICT支援員を市内小中学校に配置することで、ICT機器活用のきっかけとしていただきました。各学校で実践していただいた授業の中から、効果的な活用方法について、ICT機器活用事例集としてまとめています。これについては、3月末に、OPENの「市教職員専用ページ」に掲載していきます。ぜひ、チェックしてご活用ください。

＜平成31年度のICT支援員配置校＞

興文小、静里小、川並小、中川小、小野小、荒崎小、青墓小、牧田小、多良小、時小、墨俣小、中学校の希望校（東中学校、赤坂小学校については、今年度と同じように配置します。）

☆情報モラル

今年度も小・中・高等学校、保育園等で保護者対象の情報モラル講話を全24回、計4,700人を対象に、学校の実態に合わせて内容や形態を工夫して行いました。ネット・スマホが加速度的に普及していく中で、子ども・保護者ともに情報モラル教育が重要になってきます。来年度の保護者対象の情報モラル講話についてご相談があれば、教育情報センター（75-7020）までご連絡ください。

今年度も研修等で大変お世話になりました。来年度も「学校の応援団」として、先生方、子どもたちへの支援に精一杯努めてまいります。1年間ありがとうございました。



教育相談

ネットゲーム・動画視聴による不登校の長期化

今年度も「不登校の未然防止と早期対応」を重点に取り組んで参りましたが、新規不登校、過去からの継続不登校として報告される児童生徒数は、現在増加傾向にあります。

その要因としては、12月にも紹介させていただきましたが「生活習慣が崩れ、昼夜逆転傾向」の児童生徒が増えている状況が挙げられます。きっかけとなる要因は友達とのトラブルであったり、学習や進路に対する不安であったりするなど個の児童生徒によって様々です。しかし、欠席までには至らなかった児童生徒の中にも、自分の好きなゲームや動画視聴に夢中になることで現実から逃避してしまい、生活習慣が崩れていることが考えられます。特に小学校においては、家庭や学校での不安や不満が1次的な要因としてあり、その後、ゲーム・動画視聴に夢中になってしまうことが2次的な要因となって、生活習慣が崩れ、長期欠席につながる例が多いです。

小学校に入学する以前から、保護者がスマートフォンやタブレットPCで子どもに動画を見せたり、ゲームをやらせたりする光景はどこにでも見られます。そうした保護者へネット環境が子どもに及ぼす影響や生活習慣の確立を啓発していく必要があります。

研究所としましても学校における情報モラルの講話やネット依存への相談・支援を通して、インターネットの利用の仕方や生活習慣の大切さについて、各学校と連携を取りながら、子どもたち本人や保護者に伝えていきます。

個・家庭の実態に応じた対応を！

今年度も研究所の事業を生かしながら、先生方には、児童生徒だけでなく家庭の実態にも応じて、少しでも学校に足が運べるように対応していただきました。中でも以下のような対応をしていただいたケースは効果的であったと捉えております。ご参考になさってください。

- ・担任だけでなく、教頭先生や生徒指導主事、ほほえみ相談員等と連携・分担し、家庭訪問を続けて登校の仕方を提案してきたことで、保護者の理解を得ることができた。
- ・病院で薬を処方されてから、研究所のほほえみ教室にも一定の出席ができた。同時に学校から相談室登校の提案をし、短時間登校ができるようになった。
- ・登校の手段としていくつか紹介するのではなく、その児童生徒ができそうな登校手段を順番に紹介。生活習慣を改善するために、放課後登校から徐々に午前登校に変更していく。また、午前中が無理なら、午後から登校、それも無理なら放課後登校、さらに時間帯を決めて、タッチ登校など、順番に保護者に提案。
- ・欠席しがちな児童生徒の保護者の悩みをSCにかける。日程的に無理なら研究所等の相談機関を紹介し、訪問してもらい保護者と学校とで対応を考えた。

少年支援

関係諸機関とさらなる連携を！

岐阜県における平成30年度の少年犯罪の認知件数は、平成20年度と比較すると約3割に減少しています。どの中学校も落ち着いて授業に取り組んでおり、祭りなどの行事や大垣駅周辺、大型商業施設でも、子どもたちの健全な様子が伺えます。

大垣市防犯推進協議会では、「市、警察、学校、地域など関係諸機関が連携した成果が出ている」と受けとめています。研究所から委嘱している大垣市少年支援員の活動も健全な青少年育成の一助を担っています。しかし、いじめ、不登校、SNSにかかわる問題行動、虐待など対策を講じなくてはならない問題が山積していますので、来年度も関係諸機関と密に連携をとっていきます。

<大安 DASH 村> <大垣市少年支援員の補導>



個に応じた支援が必要！

今年度の少年支援グループ事業を振り返ると、例年以上に「発達の特性に応じた支援を必要としている児童生徒が増えた」という印象が強くなりました。少年支援グループ7名で、落ち着きのない児童の学級内支援、教室に入れられない児童の校内別室支援や家庭訪問支援、登校支援を行いました。その結果、以下のような支援方法が効果的でした。

【落ち着いて授業を受けられるようになった】

- ・本人の困り感、発達の特性に応じて、支援方法を工夫した。
- ・本人が頑張ったときに、すかさず認め励ます声かけを行った。

【教室復帰できた】

- ・相談室などの別室から、スモールステップで教室復帰を目指した。
- ・本人の困り感を緩和する相談活動を行った。

【相談室等で安定して生活できるようになった】

- ・本人のペースに合わせて、学習支援をした。
- ・適度な目標を掲げ、前向きな気持ちを支えた。
- ・心をほぐす活動やソーシャルスキルトレーニングを行った。

【家庭で生活リズムを改善できた】

- ・家庭訪問して心をほぐす活動を行った。
- ・本人や保護者と相談活動を行い、困り感を共感した。

≪教育総合研究所にかかわる3・4月の行事≫

3月13日(水) 教育実践研究論文賞状伝達、奨励金交付式

4月4日(木) 小1担任研修会

18日(木) 教育相談研修会

19日(金) 第1回研究指導員会

24日(水) 第1回研究部長会